

令和4年2月21日	
資料提供	
担当課	IR推進室
担当者	蓬臺（ほうだい）、芝田
電話	073-441-2324



## 第3回和歌山県「IR誘致に関する有識者会議」の開催結果について

標記会議について、伊藤元重座長（東京大学 名誉教授、学習院大学国際社会科学部 教授）の議事進行のもと、以下のとおり開催しました。

なお、今後については、有識者会議においていただいた御意見をはじめ、パブリックコメントや、説明会及び公聴会でいただいた県民の皆様からの御意見について和歌山県特定複合観光施設区域整備計画（案）に反映させた上で、立地市である和歌山市及び和歌山県公安委員会の同意を得たのち、和歌山県議会において議決をいただき、令和4年4月28日までに国へ申請する予定です。

### 1. 会議の日時及び場所

日時 令和4年2月19日（土）13:00～15:00  
場所 グランヴィア和歌山6階 ル・グランA

### 2. 出席委員

有識者会議の委員全員出席（別紙参照）  
※伊藤座長、大久保委員はオンライン参加

### 3. 議事

- (1) 開会
- (2) 知事・座長挨拶
- (3) 委員の紹介
- (4) 区域整備計画（案）  
に関する委員からのご意見
- (5) 閉会



### 4. 伊藤座長のコメント

和歌山県特定複合観光施設区域整備計画（案）については、これまでの有識者会議で議論してきたことを非常に丁寧にまとめていただき、この結果については高く評価している。

和歌山IRが日本で最初のIRとして動き始めることが、その後の日本の地域活性化の一つの道筋を見せてくれるということを期待したい。

この計画が、実際に実行される段階においては、いろいろなことが出てくると思うので、当初の理念をしっかり守ってやっていけるかということ、これからも関心をもって見ていきたい。

### 5. 委員の発言要旨

- (1) 事業者選定時点から内容が良くなっているとのご意見
  - コンセプトがより明確に世界にアピールできるものとなり、都市型IRとの共存という大切な視点も盛り込まれた
  - 施設意匠は、オープンマインドにあらゆる人を広く受け入れることが体現され、一体感があってインパクトのあるものに改善された
  - 環境負荷低減として、2050年カーボンニュートラルに向けて対策がより具体的になった
  - 県民理解の視点で欠かせないカジノ事業収益の活用は、内容が具体的になり進展した

（次項へ続く）

## (2) 今後引き続き検討・対策が必要とのご意見

- 交通への影響・対策については、引き続き詳細な検討が必要
- 資金計画については、引き続き確実性を高めることが必要

## (3) 和歌山IRに期待することについてのご意見

### <和歌山の独自性の発信>

- カジノだけに頼らず、和歌山IRの本物の魅力（海、太陽、高野山・熊野古道など本物へのアクセシビリティなど）を世界にアピールすることが重要
- IRという新しい取組と和歌山の歴史・文化をうまく融合していくことが、和歌山の誇れる進取の気性であり、そこを強調できれば他地域との差別化も図れる
- 従来の物見遊山的な観光ではなく、MICEを通じた交流など、より多様で深みのある観光を促進していくことが大事であり、IRの果たす役割は大きい
- IR区域は、全域整地造成済みであり、早期に開業できることは大きなメリット
- 和歌山と大阪のIRがそれぞれの強みや役割分担により共存共栄し、日本観光のゲートウェイとなることを期待
- 外国人のみならず、日本人にも真の和食文化を再認識してもらえる地になることを期待
- 食の体験にとどまらず、その背景にある人々の生業・生活・考え方などを付加して、食文化として発信することが重要

### <有害な影響の排除>

- IRで得た収益を活用して、既存のギャンブル等の依存症に対して対策を強化することで、全体的な依存症患者の減少に寄与することに期待
- カジノ利用者のデータを活用した依存症の基礎研究を通じて、対策の検証を行うとともに、地域住民の不安を解消することが重要

### <県民への理解促進>

- マリーナシティは整地済みであるため、土壌対策に関する負担もないと思われ、IR事業全体として県民リスクがない点はしっかりとアピールできる
- IRのような新しい取組を、雇用の維持拡大や人材の育成につなげていく点についても強調すべき
- IRは、地域観光や社会インフラの整備、就業の誘発など経済効果が高く、地元企業を巻き込んで一緒に成長できる仕組みづくりが重要

### <その他全般的な事項>

- SDGsへの関心の高まりやデジタル化・グローバル化の進展など世の中の変化そのもののスピードが増しており、それらへの対応が重要
- 先端テクノロジーやデータの活用によるマリーナシティ全体のスマート化も重要な視点
- IR事業の運営を事業者任せにするのではなく、公益的観点から県が指導できる仕組みを構築すべき
- 人流を作るという意味では、高速道路などの陸路だけではなく船など海上の移動も含め様々なアイデアが必要

(五十音順・敬称略)

- 伊藤 元重  
【座 長】 東京大学 名誉教授、  
学習院大学国際社会科学部 教授
- 大久保 洋子 (一社) 日本家政学会食文化研究部会 副部会長、  
(一社) 和食文化国民会議 顧問
- 佐伯 英隆 京都大学公共政策大学院 名誉フェロー、  
株式会社イリス経済研究所 代表、  
(一社) 日本ゲーミングスタンダード協会 代表理事
- 谷口 博昭  
【座長代理】 (一財) 建設業技術者センター 理事長、  
芝浦工業大学 客員教授、  
(公社) 土木学会 会長
- 牧野 明次 岩谷産業株式会社代表取締役会長 兼 CEO、  
(公社) 関西経済連合会 副会長
- 吉川 左紀子 京都大学 名誉教授、  
京都芸術大学 学長、  
同大学文明哲学研究所 所長